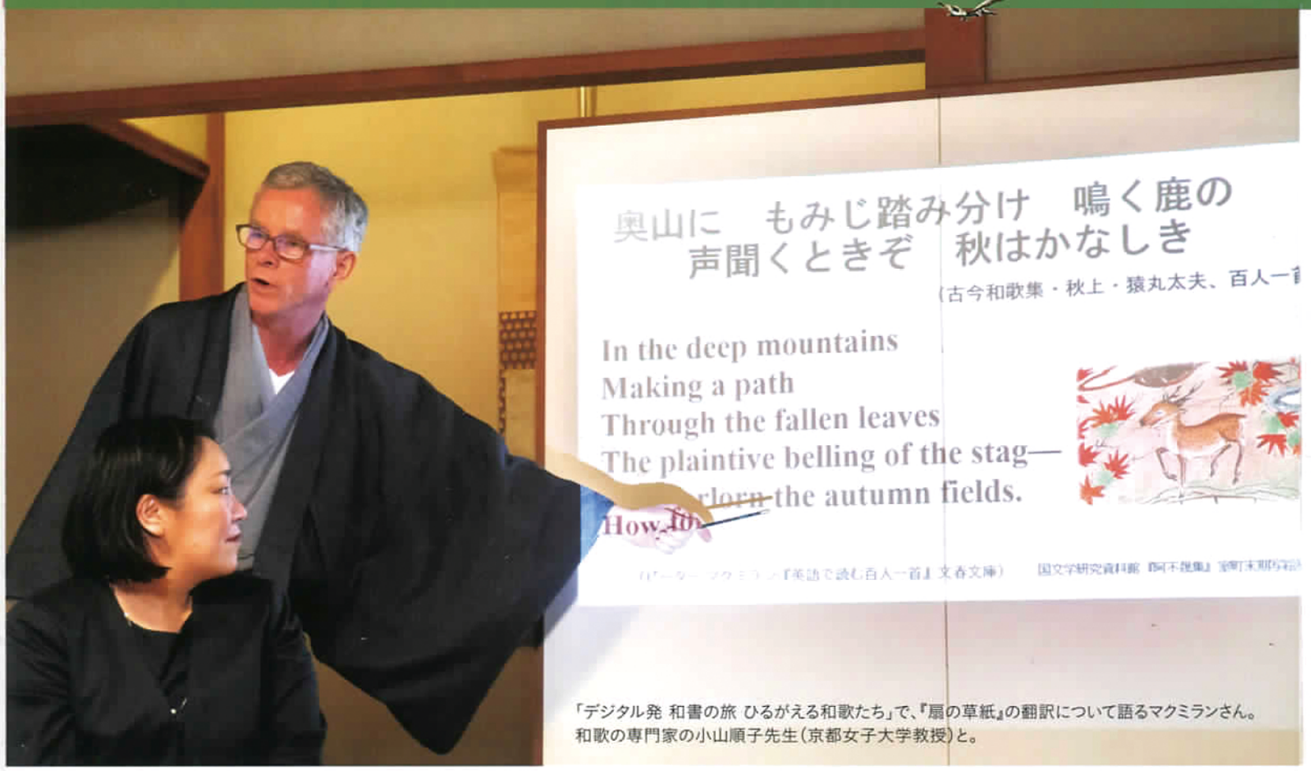
Translator In Residence

『扇の草紙』から読み解く日本の美意識

トランスレーター・イン・レジデンス　ピーター　マクミラン

▲当館所蔵『阿不幾集』

巻子本『阿不幾集』の全容は、新日本古典籍総合データベースからご覧いただけます。
https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200006812/viewer
DOI:10.20730/200006812



「デジタル発 和書の旅 ひるがえる和歌たち」で、『扇の草紙』の翻訳について語るマクミランさん。和歌の専門家の小山順子先生(京都女子大学教授)と。

英訳百人一首で古典の世界をボーダレスに
―「100人ぐりっ首」開催―

また当館の地元・立川市では、中高生を対象に、マクミランさん作・英訳百人一首カルタを使ったカルタ大会「100人ぐりっ首」(2018年7月25日、於立川市柴崎学習館講堂・体育館、立川市教育委員会後援)を開催しました。

このイベントには百人一首が好きだという生徒だけでなく、英語が好きで英訳百人一首と出会ったという生徒も参加し、会場は熱気に包まれました。マクミランさんは、古典を現代社会に活かしてゆくないじぇる芸術共創ラボの中で、英語を通して日本文化にもう一度触れる機会を作ってゆきたいと考えており、「100人ぐりっ首」はその大きな一歩でした。

▲「100人ぐりっ首」の様子。体育館に敷き詰められた60畳の畳の上で、磨いた腕を披露する参加者たち。

これまでのイベントの動画は、こちらからご覧いただけます
https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/past/index.html

アウトプットイベント「ひるがえる和歌たち」での"共創"

マクミランさんは、当館に所蔵される二点の『扇の草紙』―和歌と、それに関する絵画を扇型の画面に収めた作品群―の英訳を行っています。

2018年12月9日に京都市で行ったアウトプットイベント「デジタル発　和書の旅　ひるがえる和歌たち」(於有斐斎弘道館、京都市後援、凸版印刷(株)協力)では、凸版印刷が新たに開発した画像ビューアーを活用しながら活動の成果を発信すると同時に、参加者の方々と一緒に、和歌が詠まれた文化的背景や様々な鑑賞の在り方を考え、より魅力的な英訳を"共創"しました。

▲参加者の方に呼びかけ、一緒により良い英訳を検討するマクミランさん。

『扇の草紙』から日本人の遊びの感覚が鮮やかに伝わってきました。たとえば、かささぎの歌に添えられた扇面には傘と鷺が描かれており、その遊びの精神に触れて感激し、また、ありがたいと思いました。

ピーター　マクミラン［翻訳家］

アイルランド生まれ。アイルランド国立大学を卒業後、渡米し、博士号を取得。杏林大学教授などを歴任。日本在住歴30年。2008年『One Hundred Poets, One Poem Each』(英訳・小倉百人一首)で日米友好基金日本文学翻訳賞、日本翻訳家協会日本翻訳文化特別賞を受賞。2016年に伊勢物語の英訳『The Tales of Ise』を出版。2017年、『英語で読む百人一首』を文春文庫より刊行。